審査結果報告書

2021 年　1 月　15 日

主　査　氏　名　三枝信　印

副　査　氏　名　小下拓　印

副　査　氏　名　日高央　印

副　査　氏　名　青山直善　印

1．申請者氏名　：　古江　康明

2．論文テーマ　：　Effectiveness and safety of endoscopic aspiration mucosectomy and endoscopic submucosal dissection in patients with superficial esophageal squamous-cell carcinoma
（表在型食道扁平上皮癌に対する内視鏡的吸引粘膜切除術と内視鏡的粘膜下層剥離術の安全性と有効性に関する検討）

3．論文審査結果　：

近年、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）は様々な消化管悪性腫瘍の治療法として普及している。今般、申請者は、表在性食道扁平上皮癌に対する ESD の有用性を、内視鏡的吸引粘膜切除術(EAM)を対照として、後方視的に安全性と有効性の観点から検索した。対象として、EAM は 134 例 149 病変、ESD は 240 例 274 病変の表在性食道癌を用いた。治療処置時間は、EAM が ESD に比べて有意に短時間であった。治療に伴う穿孔率は ESD が EAM に比べて有意に高かった。局所再発率は EAM が ESD に比べて有意に高かった。15mm 未満の病変では、EAM の一括完全切除率は比較的良好であり、処理時間も ESD に比べて有意に短時間であった。以上の結果から、申請者は、ESD は EAM よりも一括完全切除率が高く、局所制御効果に優れている。一方、15mm 未満の病変では、EAM も治療法の選択肢の 1 つになりうる、と結論付けた。公開審査では、申請者は主論文の内容について約 20 分にわたり詳細な発表を行い、その後の審査員からの多種多様な質問についても適切に答えることができた。審査員は、学位論文の内容の高さ、質疑応答の的確さから、医学博士の学位に十分値する判断した。